

演題名	体外受精卵の活用と流通体制		
発表者 氏名	月岡光彦	所属	飯田家畜保健衛生所
<p>管内で利用されている体外受精卵は、平成3年度から県畜産試験場、平成4年度からは(社)家畜改良事業団から供給されている。体内受精卵に比べ経費面で有利であるにもかかわらず、その利用が進んでいないのが現状。そこで、体外受精卵の普及を妨げる要因を明らかにするため、現在体外受精卵を利用している3団体の移植成績及び子牛の流通体制等を調査。</p> <p>体外受精卵の利用が最も進んでいる団体(団体C)は、受胎率が53.6%と良好で、地域内一貫生産体制が整備されており、地元自治体の補助による経費の農家負担の軽減等が特徴で、体外受精卵のデメリットを補う体制が確立。団体A及び団体Bでは、体外受精卵の受胎率が低い、体内受精卵の供給が豊富、体内受精卵の産子の子牛市場に出荷し有利販売する、といった考え方などがあり、団体によって体外受精卵に対する考え方の相違点が明らかとなった。</p>			